会報　2023 年 6 月号

日本ニュージーランド協会（関西）　　創立 1970 年 11 月 11 日

New Zealand Society of Japan, Kansai

The lotus pond where the rain is approaching is dark.

(T.Kyoshi)

あと暫く梅雨が続くようですが会員の皆様はご健勝のことと存じます。創立５０周年年記念として長居植物園に植えた１本の桜の木は順調に育っていますので、来春には小さいながら花が咲きそうです。ご賛同いただいた皆さんに感謝いたします。

コロナ禍は油断できませんが、日常活動が少しずつ平常に戻ろうとしております。当会の会員総会もお陰様で当初予定通り４月１６日に開催いたしました。（議事要旨同封）今後の行事も状況次第ですが平年並みに実施できるのではないかと存じます。

これからも皆様のご指導・ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

「Te Mata Peak」Havelock North （松沼清司）

日本ニュージーランド協会（関西）
〒558-0004　大阪市住吉区長居東 2-17-28,407(石井気付)
電話・Fax：06-6607-2112
http://nzsocietykansai.com　E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp

■　臨時例会のご案内

例会等でお世話になっている中央電気倶楽部の午餐会（映画会）に 12 名ご招待いただきましたので臨時例会として開催いたします。

とき：7 月 21 日(金)12 時 30 分集合

終了：16 時ごろ(途中休憩含む)

ところ：上記倶楽部 5 階大ホール

北区堂島浜 2-1-25　メトロ西梅田から南へ 6 分

＊映画終了後、オプションでビアホールへ行く予定です。

「黒部の太陽」三船敏郎・石原裕次郎出演

今年は黒部第 4 ダム竣工６０周年です。ダム完成までの感動的な経緯が大画面に上映されます。主演 2 人の他往年の名優も多数出演しています。高度経済成長期の日本の事情も反映された大作です。

■　ラム肉例会のご案内（第 285 回例会）

とき：9 月 30 日（土）午後

ところ：とよなか国際交流センター

コロナ禍で延期しておりましたが、4 年ぶりに開催の予定です。会場は神戸から豊中に変更しますが、阪急豊中駅に隣接したアクセスのよい場所です。詳細は、後日改めてご案内いたします。

■　SDGs 社会の実現に向けて（会員総会講演会）

その取り組みの一つ、容器リサイクルを考える

山内龍男氏

私は元々材料科学、とくに紙材料を長年研究してきた科学者であり、当然紙のリサイクルも研究してきました。また、関連して包装学会とも付き合いがあり、我々の身近にある包装容器のリサイクルの概要についても、それなりに知悉しています。今回、2023 年度の総会開催場所として長居公園にある花と緑と自然の情報センター内の会議室を当協会が利用するにあたり、その使用条件として、関連する講演、例えば環境問題のそれをする必要があるので、私が容器リサイクルについて以下のようにお話しした次第です。

環境問題は我々、地球人にとって非常に重要な問題であり、私が Rotorua に滞在した 1980 年代半ばからでも、NZ では水害被害はほぼ無かったのだが、最近、幾つかの水害が報じられるようになりました。地球温暖化がもたらす集中豪雨が、やはり NZ でも生じ始めたようです。ところで環境問題で昨今よく耳にするのが SDGs(sustainable development goal:持続可能な開発目標)であり、実際問題として生活で排出される廃棄物の処理、より具体的には生活資材とくに容器材料を我々が如何にするかであり、環境省が勧める３R の標語がある。**スライド 1** は容器原材料（金属、ガラス、プラスチック、紙）における３R(**reduce, reuse, recycle**)適応性を示す。

容器材料の、３Rからみた、SDGs社会における適応性：紙はリサイクルの優等生

• ３R	Reduce	Reuse	Recycle
• 金属	△	X	○
• ガラス	△	◑	○
• プラスチック	△	X	X
• 紙	△	X	◎

回収業が成立するのは紙、アルミ
埋め立て処分：土地と経費？
マイクロプラスチック化もあり、脱プラ

• Reduce:薄肉
• Reuse:リターナブル
• Recycle:要エネルギーと低質化
• 材料の構成素材別の分離が可能か？とくに廃プラは難しい。
• 古紙はその99%が木材パルプ繊維、かつ
　水で分離、低質化しても膨大な用途がある

スライド 1

容器をできるだけ少ない量で作る（薄肉化 **reduce**）はいずれの材料でも行われる。最近一部 PET ボトルが手で潰せるようになったことで実感できるでしょう。次いで容器を洗浄して再利用する **reuse** は、ガラス容器のみ、日本ではわずかに一部酒類容器

（日本酒・ビール瓶）に利用されている程度である。容器の環境問題で最も重要な recycle であるが、廃棄物の回収や分別そのものにエネルギーを要し、さらにリサイクルした材料は一般に低質化する。考えればリサイクルとは、材料をそれを構成する素材に分別して後、再生することであり、これが結構難しく、実用程度の分別では再生品の低質化を伴う。分別後の金属およびガラスの再生では高熱の熱溶融が基本であり、これには多量のエネルギーが必要になる。さらにアルミ缶を例に取ると、強度保持のため、蓋部分はアルミに加えてマンガン等の他の金属が加えられており、これらの分離は困難です。すなわち、再生アルミは元のアルミと同じではなく、アルミ缶としての再利用は限定され、多くは窓枠など他の用途に回されている（厳密な意味でのリサイクルにならない）。次に最も手に負えないのが廃プラスチックである。海洋でのマイクロプラスチックになることも懸念されるのだが、廃プラ内の一個の容器でさえ、多くの場合成型するための可塑剤や合成開始剤等の物質が含まれ、また容器は通常数種類（例えば外がポリエチレンと内にポリプロピレン）のポリマーの混合物であり、さらに廃プラごみは構成ポリマーの異なるプラ容器の大集合体なのである。これらから単一のポリマーを分別する方法はなく、一端モノマーに戻すとかが研究されているが、膨大なエネルギーを要する。単一ポリマーでの成型品である PET ボトルでも、リサイクルした PET は低質化するのでその大半は絨毯や成型品になり、厳密な意味でのリサイクルにはならない。公表されている数字上のリサイクル率には回収した廃プラスチックの輸出や燃やして熱を取り出すサーマルリサイクルも含まれており、本当の意味でのリサイクルには程遠い。他方回収した古紙はそのほぼ 99%が木材パルプ繊維であり、水の中で容易に分別されて、古紙パルプとして再利用されている。例えば新聞紙の約 80%は古新聞から作られており、これこそリサイクルである。それでも紙を多数回リサイクルすれば、紙中の残留印刷インキ量が増えるのであるが、低質化した紙を利用する膨大な用途として、生活資材である段ボールの中芯原紙のような物流用紙がある。**スライド 2** は各素材について改めて説明している。まず金属やガラス容器の製造およびリサイクルにはそれらの溶融に多量のエネルギーを必要とする。次にプラスチックは石油化学製品であり、そのリサイクルでは分別に大きな問題を抱え、またマイクロプラスチック問題を引き起こす。当然ながらサーマルリサイクルとして燃やすと炭酸ガスを放出する。他方古紙は何度もリサイクルされ、低質化した紙でも物流分野の紙として膨大な用途があり、さらに最終的には廃プラスチックと一体化した固形バイオ燃料（スライド 3 中の RPF）としても利用できる。紙の原料である木材自体は炭酸ガスの吸収体（カーボンニュートラル）であり、石油化学製品であるプラスチックと絶対的に異なる。

スライド 2

- 金属・ガラスはその製造・リサイクルで多量のエネルギーを使用する
- プラスチックは石油化学製品で生分解しない。サーマルエネルギーとすると多量の炭酸ガスを排出，　廃プラの分別にも問題
- 紙は多数回のリサイクルがされており、生分解しても、燃料化してもカーボンニュートラル
- エネルギー源：石油、石炭、LNG（これらはいずれも炭酸ガス排出），原子力、太陽光、風力、バイオマス、廃物

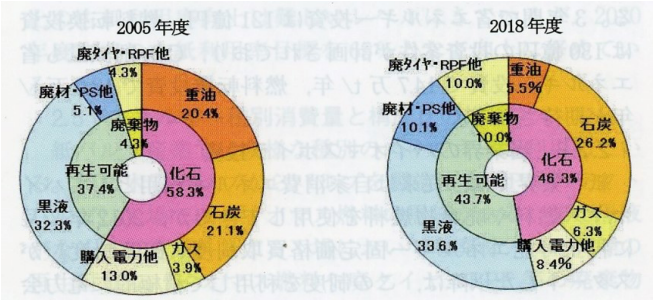
材料リサイクル問題、とくに金属・ガラスのそれを議論するにはエネルギー問題も同時に考える必要がある。NZ では今も大きな割合で水力発電があるが、日本ではそれ以外が多く、まず火力エネルギー源として石油、石炭、LNG（これらはいずれも長年にわたり地球上に貯めてきた化石燃料であり、燃やすと炭酸ガスを排出する）、原子力、太陽光や風力、バイオマスなどの再生エネルギー源がある。福島原発事故でその欠陥が露わになった原

子力発電であるが、ウクライナ侵攻に伴うエネルギー危機が引き金になって脱炭素エネルギーとして再評価されている。ただ、欧米と異なり地震多発国である日本では、原子炉本体は無事でも、そのたびに各部材にストレスが掛かるわけだし、そもそも原子炉を構成する各材料の寿命はバラツキがあり、厳密に言えば、安全審査で判別することは難しい。やはり今後は再生エネルギーに頼らざるを得ないし、他方我々もできるだけ省エネで、消費エネルギーを少なくする必要がある。各材料、とくにそれらのリサイクルにおけるエネルギー源を示す図は無く、ここではリサイクルも含めた紙パ産業全体でのエネルギー源の変化（2005 年から 2018 年）として**スライド 3** で説明する。まず、材料の製造・リサイクルで高熱エネルギーを必要とする金属・ガラス工業と異なり、紙パ産業で必要とするエネルギーは比較的少ないのだが、その内訳をみると、この約 15 年間で化石燃料の割合がかなり減少している。その中でもとくに重油使用が大きく減少しており、他方安価故に、石炭が増えている。なお、化石燃料でも石炭は炭素含有率が高く、それゆえ多くの炭酸ガスを放出する。一方で、再生可能エネルギーや廃棄物由来のエネルギーは増大した。図中の廃材、PS, RPF, 黒液は、いずれも紙パルプ産業に固有なのだが、すべてバイオマスである木材由来の再生可能エネルギーである。なお黒液とは木材パルプ製造に際し、木材チップと混合した薬液が廃液となった状態の別称である。これを濃縮して後燃焼して廃液を再度薬液に転換するのだが、廃液中に多量に含まれる木材成分が燃えてエネルギー（発生蒸気でタービンを回して発電し、その後の廃熱は紙の乾燥等工場内で必等なエネルギー）になる。

追：石井会長から NZ における SDGs の取り組についても加筆されては？と指摘されました。専門外ですので、以前会報で紹介した Nikki Kininmanth さんにも問い合わせするなど、少し調べたのですが、分かりませんでした。それで、本件については、この記事を読んだ NZ 在住の客員会員の方からのレポートを期待したいと思います。ただ、私が Rotorua に在住した 1980 年代半ばでは、家庭ごみは指定の大型の丈夫な紙袋（以前、セメント袋としてよく利用した重袋に類似）に入れて、最終的には埋め立て処分でした。なお、日本も当時は東京の夢の島など埋め立てが多かったのですが、現在私が居住する大阪市では曜日を分けて、焼却する普通ごみ、また多分リサイクル業者に回る紙ごみと資源（金属、ガラス）ごみがあります。容器プラごみは別に回収されるが、結局焼却していると言われています。

スライド 3

紙パ産業でのエネルギー源：その変遷



（山内龍男）

■　Aotearoa やさしさの循環する国で　（第 8 回）

谷あいの「ちいさいおうち」

ヴァリーホームステッドの外観を正面から

＊ホームステッドの由来

わが家の敷地には、ホームステッド（邸宅）があり、その周りを広いガーデンが取り巻いている。庭を通ってぐるりと敷地内を一周できるデザイン

になっているのだ。家はカウリ（ニュージーランド原産の巨木。北島北半分のみに見られる。現在は政府の保護下におかれ伐採できない）製で、ニュージーランドでも数少ない Kauri Homestead のひとつだ。1898 年に裕福な材木商が家族のために建て、その後ファームハウスとして使用されたという記録が残っている。傷みがきている箇所を手入れしながら暮らしているが、新しい建材にはない味わいがある。

庭の随所に残る手描きのサイン
「レンガが濡れて滑りやすいので注意」

ホームステッドの庭は英国出身の夫婦が造ったものだ。英国軍人の夫の配属が変わるたびにアジアのいろいろな国を住まいにし、夫人はいく先々で庭づくりをしてきたのだという。ノースランドに定住したのち、雑草のはびこった粘土層の荒地を７年かけて全国で有数の庭園に作り変えた。毎年行われるガーデンコンテストでもたびたび上位に入賞。ニュージーランド原産種と伝統的な英国風庭園を組み合わせたホームステッド庭園の様子は、園芸番組「Maggie’s Garden Show*注」で紹介され、庭巡りツアーはもちろん、希望する地元住民にも開放された。当時の名残としてプロの手による手描きの木製のサインが庭に残っている。「Herb Garden」「最高速度 10Km」に混じって「ブライダルの小径」というサインもあるが、これは結婚式をあげたカップルがリムジンで乗りつけ、記念撮影していた時の名残だ。この夫人は執筆も手がけていて、ガーデニングに関する著書、共著も多々残している。

ミレニアム直前にこの 19 ヘクタールの土地つきのホームステッドが売りに出され、広い庭つきの家を探していた私たちの目に止まったのだった。屋敷そのものはずっと同じ敷地に立っていたのではなく、1980 年にトラックに載せて運んできたものだ、とわかった。というのも、購入してから数年がたった頃、修理が必要になり業者（電気屋だったと思う）に依頼した。二人組の若い方の男性が屋内に脚を踏み入れてすぐに「この家を知ってる。小さい頃に住んでいた家だ！」と感嘆したように呟いたのだ。そして家がもともとどこにあって、どんな間取りだったかの詳細と自らの思い出を語り始めた。作業そっちのけで。赤の他人に「むかし君の家に住んでいた」と言われたのはもちろん初めてのことである。

（注）TV One のシリーズ番組 Maggie's Garden Show（旧 Palmers Garden Show）。1991 年から 2003 年に放映された人気番組。

Dinan Anthony 夫人が手がけた著作は多い。文体もユーモアたっぷりで面白い。これらは古本屋を巡って集めたコレクションで、著作の一部だ。

＊引っ越すおうち

屋敷はエントランスホールで二つに分解され、半分ずつが大きなトラックに載せられて今の場所まで、約７キロの距離を運ばれたということだった。「家の引越し」は、幼い頃に繰り返し自問したテーマだった。大好きだった絵本『ちいさいおうち』に出てくる、家がトラックで引越しするという内容が不思議でしかたなかったのだ。もちろん実際に見たことはないし、想像の範囲を超えていた。ニュージーランドに住むようになってから、早朝や深夜に家を載せたトラックが通るのを目の当たりにするようになったが、脳裏に焼きついていた絵本のイラストのイメージと、後年マイホームとなったホームステッドの家が結びついたのは、この時が最初だった。ちなみにこの英国人夫婦は別居。

バージニア Ｌ バートン作 岩波の子どもの本の『ちいさいおうち』

夫人はオーストラリアに渡った、と人づてに聞いた。不動産業者に「地元住民はもちろん、国中のガーデン愛好家にこぞって愛されたいわれのある庭ですよ」と案内されて訪れたときは、NGH -The Non-Gardening Husband （庭仕事をしない夫）というニックネームのついた退役軍人の元夫がひとり暮らし中。端正だった庭は、愛情が注がれないまま数年が経とうとしていた。新オーナーになった独身のわたしが、仕事の片手間に手入れを試みたけれどまったくの焼け石に水。専任のガーデナーなくしては、このスケールの庭は維持できないことに気づくことになった。それから 20 余年。除草剤を使わずに維持できるだけの品種と数に絞って、なんとかガーデニングを続けてきた。

＊ランドスケーピング

花や木は、日当たり、湿度、風の通り道、色の組み合わせなど、よく考えて配置されている。ランドスケーピング（landscaping 造園）というそうだ。わが家の８０メートルのドライブウエイの左右にはオレンジのノウゼンカズラやジャカランダ、アガパンサス、プルメリア、紫陽花のほか濃い紫のテッセンや名も知らない花が咲いている。防風林としての竹林もある。先日は夫のドンがここから初めてタケノコを収穫した。採れたてをすぐに調理したこともあって、柔らかくえぐみのない最高の美味しさだった。

ドライブウエイ横に設けられたガゼボの様子。1993 年に New Zealand Gardener の表紙を飾った写真。

“senkaki”という日本種のモミジ。サンゴモミジ

家の入り口付近にガーデニアやバラ、ラベンダーのような香りの高い花が、白い外壁には真っ赤な

ブーゲンビリアが配置されている。幹がサンゴの色をしたモミジもある。面白いのが、椿とハイビスカスが一緒に花を咲かせる時期があることだ。椿は開花期が長く、初冬を告げる６月ごろに満開になる。

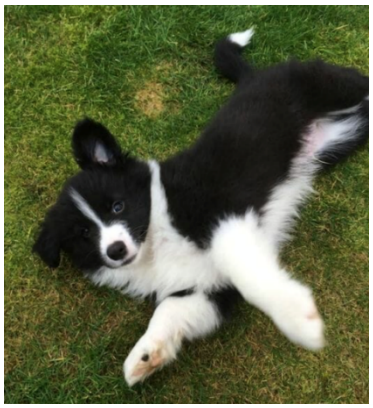
装飾を凝らしたベランダの手すりに沿って勢いよく繁るシナフジは、夏には紫の花をしだれさせ、葉は緑のカーテンを作って日光を遮ってくれる。ホームステッドでのランドスケープの経緯を記した「Seven Summers at Valley Homestead」によれば、英国人夫婦がノースランドのこの地に定住して最初に植えたのが、乾燥に強いシナフジ(Wisteria sinensis)だったという。夏期のフジは成長のスピードが速いので、剪定やツルの誘導が欠かせない。ツルがあちこちに巻きつかないよう隔日で誘導しないと、あっという間に好ましくないところに巻きついて、処理が大変なことになることもしばしばだ。花が終わると大きな豆のようなサヤが垂れ下がる。サヤが弾けると、飛び出してここかしこに飛び散った種が芽を出す。

完成直後の東洋風の池
（オリエンタルポンド）

大きなオリエンタルな趣の池は、もともと山の上から流れてくる地下水の水流が増えたときの、ため池の役割をさせるもので、柳とスイレンが東洋的な雰囲気を醸し出している。池の周りには NZ の原生種のコーファイ、ポンガ、シダやサキュレント（succulent 多肉植物）などが集められ、朱色のペンキで塗った東洋趣味の鳥小屋や盆栽を飾る小さな小屋もある。

庭の中心には白と桃色の木蓮のほかに、桜や椿、モミジ、ユーカリなどが植わっている。バラやカンナのほか、クリスマスローズ、ホスタ（ギボウシ）のような植えっぱなしの宿根草もある。鳩小屋やガゼボ（東屋）もしつらえ、スイセンやスズラン、フクシア、モッコウバラなど季節の花を眺めながらお茶が飲めるようになっている。木の下にいくつものベンチがあり、英国式に朝と午後にお茶や読書もできる。鉄道の古い枕木を使った凝ったベンチもある。私たちは、木陰にハンモックを吊るした。お茶、読書、昼寝の三つが楽しめるように。

地面から少し高めに設定したハンモックでの昼寝は快適だ。読書しながら寝落ちするのが至福の時。



Border Collie 牧羊犬として知られる、とても賢い。

＊エディブルガーデン

広大な敷地に七面鳥、野生の馬、キジ、ウズラなどが住みついていたが、そこへ私たちがさらに牛、ボーダーコリーや愛護協会から引き取った猫、マオリ豚、ニワトリを持ち込んだ。

庭でくつろぐ Kunekune Pig（クネクネピッグ=マオリ豚）、ニワトリとも仲良しだ。

Edible Garden（エディブルガーデン。眺めて楽しい、食べて美味しいガーデン）には柿、イチジク、りんご、マンダリン、姫りんご、レモン、カリン、パパイヤ、ネクタリンがあったのに加え、オーガニック農園をしている友人からバナナを買った。見た目はいまひとつ、でもとても甘い。姫リンゴはまったく甘味がなく生食には不向きなので、保存食にするか豚のおやつになった。カリンは喉のためのジュースか煮込んでコンポートに。あるいはチーズに添えて食べるためのペーストをつくる。イチジクは小さいながらも生食向き。熟してくると鳥と競争しながら収穫する。柿は立派なサイズのものがたくさん穫れるので、友人たちにお裾分けする。肉厚のマイヤーレモンも「塩レモン」を作るほど、無農薬のものがたくさん穫れる。

フェイジョアは大きいものではLL サイズの玉子ぐらいにもなる。外皮が柔らかくなれば、食べごろだ。

さらに数年前、オレンジのように果肉が食べられる甘いレモン（レモネード種）を植えた。ミミズによる、し尿処理の終わった水を再利用して育ててみたいと思ったからだ。ニュージーランドに住むようになって初めて食べて以来、味の虜になったフェイジョアも植えた。日本ではあまり馴染みのないフェイジョアはパイナップルグァバとも言われ、ビタミンや食物繊維の宝庫だ。生食によし、ケーキなどの焼き菓子にいれる具材としても秀逸だ。

辛抱強く手作業で雑草を取り除くドン。エリザベス調の英国ガーデンだったが、復元を断念した。ユンボなどの大型機器を操るのは、もっぱら夫の役割だ。

家の裏手には美しいアンティークレンガの埋まった英国ガーデンとハーブ園があった。ドンがdigger（ユンボ）を駆使して地面を完全に覆い隠していた雑草を取り除き、圧力放水の機械で洗うと、きれいな放射線状に配置されたレンガが顔を出した。これはわたしとドンの現在進行形のプロジェクトで、二つ目のエディブルガーデンとして生ま

れ変わる予定だ。昨年はアボカドの苗木も仲間入りをした。ここでよく見かけるアボカドは、日本でもおなじみの「ハス」、もう一つはころんと丸い「リード」だ。昨年、愛媛や和歌山でも栽培されているという「ベーコン」を植えてみた。せっかく背丈が２メートルを超えたところで、２月のサイクロンガブリエルにやられ、根こそぎダメになった。次はメキシコ系の「フエルテ（スペイン語で強いという意味）」を植えようか、と相談中だ。

風対策のネットを張り、上から綱で支えていたのにもかかわらず、１本は根こそぎダメになった。ハス種のアボカドは生き残った。

＊亜熱帯のジャングル仕様

北島の北端に位置するノースランドは太陽の光が強く、降水量もたっぷり。草木の成長が半端なく速い。苗木を植えたら数年後には立派な樹になっていて、その成長のスピードに驚かされる。実家の庭にはソメイヨシノのそばに乙女椿が植わっていた。楚々とした椿を見慣れていたので、１０メートルもある見上げるほどの大木は、実際に花が咲くまで椿とは信じ難かった。あるとき、徒長して電線に触りそうになった椿の剪定を専門家に依頼した。職人が帰ったあとに見たら、１メートルほどにバッサリ刈り込まれて木の上部分にはまったく葉がなく、惨めに枝が露呈している。内心ギョッとした。ところが２年たったら、切ったところに花芽をつけ今まで以上にきれいな花を咲かせてくれたのだった。

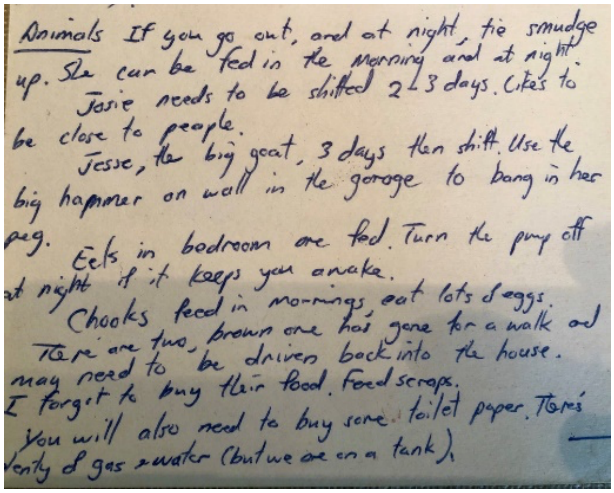
芝刈りも、芝の成長速度との「闘い」の様相を呈する。だだっ広い敷地を手動の草刈機などで作業しようものなら、数日あっても片付かない。郊外の家には必ず ライドオン芝刈り機（Ride-on Mower）という、ゴルフカートぐらいの大きさの乗って操作のできる芝刈り機がある。芝の伸び具合と湿り具合にもよるが、わが家の場合、半日から丸一日かかると覚悟しなければならない。刈った芝を集める大きなかごが座席後ろについていて、いっぱいになると牧場に移動して空にする。

Ride-on Mower。免許などはいらない。

作業中もエンジンはかけっぱなし。芝刈り機に乗って庭中を行ったり来たりするのは楽しい。作業中は音がうるさいので、耳を守るためのイヤマフが欠かせない。いったん芝刈りが始まると庭のどこにいるのか見えないし、電話の呼び出し音が聞こえないのでまったく音信不通となる。なんて好都合な！　全ての雑音を遮断して黙々と一日中作業。こんな楽しい家事を夫に独り占めさせては、とわたしも時々芝刈りをする。

日本からきた高校生に芝刈り機の使い方を指南するドン。覚えが早く、すぐに上達した。

＊知らなかったスラング


Animals If you go out, and at night, tie smudge up. She can be fed in the morning and at night.
Josie needs to be shifted 2-3 days. Likes to be close to people.
Jesse, the big goat, 3 days then shift. Use the big hammer on wall in the garage to bang in her peg.
Eels in bedroom are fed. Turn the pump off at night if it keeps you awake.
Chooks feed in mornings, eat lots of eggs.
There are two, brown one has gone for a walk and may need to be driven back into the house.
I forgot to buy their food. Feed scraps.
You will also need to buy some toilet paper. There's plenty of gas & water (but we are on a tank).

友人の置き手紙。House Sitter は人生で初めての体験だったため、写真と共に'大事にとってある。

同僚に「ハウスシッターしながら、ヨットで釣りとセーリングに出かけるのでうちは空き家になる。君が住まない？」と聞かれた。夏限定で留守宅の世話？なんだか面白そう、と引き受けることにした。ずいぶん昔、まだ借家住まいの頃のことだ。寒い日本を脱出し、ニュージーランドに滞在中だった両親と３人で車で向かうと、家の主はすでにハウスシッター先に移動した後。カードの置き手紙があった。

「ヤギ（餌は朝晩。つないだら２－３日ごとに移動させてね。人懐こいよ）と CHOOK （餌買うのを忘れたので、残飯をやってね)、家庭菜園（サラダ菜は上部をしょっちゅう切ってどんどん食べて)、緊急時の隣人の連絡先、気が向いたら近くのビーチへどうぞ」と滞在中の注意点が細かく書いてあった。気軽に家を明け渡してしまうオープンさに面食らいつつもオファーに感謝。それにしても CHOOK って?? 文面からはニワトリだろうと想像はついたものの、辞書を引いても乗っていない。ようやくして成鶏は CHICKEN でなく CHOOK と呼ばれていることが分かった。このスラング、日本人には発音がかなり難しい。20 羽以上に増えたわが家の CHOOK を見ながら、時々懐かしく思い出す。

Australorp 種の CHOOK。雌鳥は産卵効率がよく、雄鶏も性格がおだやかなことで知られる。食用にもなる種類だ。

*最後にクイズの解答を。

「牛一頭はいくらすると思う？」

おおよそで言えば、一頭あたり 1000 ドル前後だ。Stockyard（家畜取引場）で重量をはかり、年齢も加味してキロあたりで値段が決まる。雌牛は高く、虚勢牛は少し安め。

～ヴァリーホームステッドで、２年ぶりにゲストの受け入れを再開しました～

「シニア向けのお宿」で、ゆったりのんびりがモットー。

シングル、ダブル合わせて４部屋あります。

狭い日本を脱出して遊びに来ませんか？

冬季予約は６月中旬から受付開始。8 月 20 日から空きあり。

ロングステイも歓迎。予約は NZ 協会のメンバーを優先。

入国のお手伝いやレンタカーの手配、海外旅行保険の手続き、地元の観光地を訪ねる小旅行（通訳付もあります）など、なんでもお気軽にご相談ください。

庭仕事を中心に労働力を提供していただける若い方なら、宿泊無料。

英語ができなくても大丈夫。ワーキングホリデー VISA 取得のお手伝いもします。

（車の運転できる方歓迎。時期その他、詳細はお問い合わせください）
お問い合わせは「NZ 協会（関西）の会報を見て」とひと言書き、valleyhomestead.nz@gmail.com までどうぞ😀

（さかい ケイツ みか WHANGAREI 在住）

■ 佐藤慎平さんを囲む懇親会

新年度の第１回理事会（５月２３日・中央電気倶楽部）に松元舞副会長がオブザーバーとして佐藤慎平さんとワイカト大学日本事務所の小池泰司さんを伴い出席されました。
理事会は、１０名の理事が出席し今後の例会開催等について検討しました。
小池さんは近いうちに当会に入会いただけるようです。また、新たに３名の入会も決まりました。

■ 臨時例会ご報告

客員会員のアレクシス・ベネットさん（関西大学教授）が４月１５ 日に中央電気倶楽部の午餐会で講演されたので臨時例会として合流しました。宮本武蔵の五輪書の解説等を通して武士道について話されました。「自分を超える、道を究める」「自らの武器を研ぎ澄ませよ」等の示唆に富んだ本です。事務局にはベネットさんの著書の一冊、「日本人の知らない武士道」がありますのでお貸しできます。

A.ベネット氏

■ 会員の皆様へ「ご挨拶」

この度、退会させていただくことになりました堀江敏樹です。ひと言ご挨拶申し上げます。
私の仕事の内容は、紅茶を原産国から直接輸入し、小売業者への卸をはじめ、末端の喫茶店への販売をしています。小さいながらも紅茶を必要としている店に美味しい紅茶がいきわたるようにすることが本業の仕事となっています。その為、紅茶のあらゆる事柄を学習しておく必要があります。ある意味、紅茶の「便利屋」と言えます。
本来ならば、紅茶を商うのであれば、Traditional English Tea（伝統的な紅茶）の発祥の地であるイギリスに行くのが当然かも知れませんが、あえて私はニュージーランド(NZ)を選択したのは、至って簡単な理由でした。NZ は、イギリスの影響を受けたイギリス連邦の中で、統計上、紅茶の消費量が高く、世界の国々の中でも３位以内に入っています。人口が少ない割に、一人当たりの紅茶消費量が多い国なのです。その結果、紅茶関連の器具（ティーポット等）もイギリス当時の物が続けて使用されており、各家庭でも代々家族に引き継がれているという伝統が残っております。そうした伝統からか、飲茶法もイギリスの伝統を「頑固」に守っている家庭が多くあります。NZ では、“Any Time is Tea Time”で、それは日に一回だけでなく、来客があろうとなかろうと、家族で一日に何回もお茶を楽しむという習慣が続けられているのです。私がこの様な話をしても、あまり信じてもらえないかも知れません。その証拠に、NZ に訪問したことのある方々にこの話をして聞いてみると、大抵の方々から「気がつかなかった」と返事が返ってきます。これは、日本での紅茶普及にも関係していることであります。日本での紅茶消費量は、コーヒーの消費量が多いとの理由で、世界で最下位に近いからであります。これから NZ を訪問される計画がある方は、是非、NZ での紅茶の消費をあらゆる側面から見ることができると思いますので、旅の計画プランに入れて欲しいと思います。日本と NZ の紅茶消費量を経験すると何か見えてくることがあると思います。結論として言えるのは、日本の「紅茶文化」は「形」だけのイギリスのコピ

ーであるという事です。伝統的な「緑茶文化」を持っている日本人として、こうした「お茶文化」を、NZ が「紅茶文化」を伝承している様に、日本でも広めていければと念願しています。そして、真の国境を越えた世界の「紅茶文化」を育てたいものです。日本と NZ が、紅茶を通じて交流することは大変深い意味があると思います。

最後に、私たち夫婦が NZ の Bell Tea（ベルティー）社の前社長ゲープス氏と個人的に懇意にしていただき、ご自宅に宿泊させていただいたことがあります。その際、朝食の前に、「モーニング・ティー」を社長自らが私たちの寝室に持ってきて下さったことが、さすがに NZ であると、いたく感動したことを鮮明に記憶に残っています。

是非、NZ に行かれる際は、NZ の生活の中に根付いている「紅茶」を意識して旅行していただければ幸いです。今後のニュージーランド協会（関西）の益々のご発展をお祈り申し上げております。私も年齢的なこともあり、協会員を NZ に留学経験のある息子に譲りますが、今後も紅茶に関する情報を提供できればと念願しております。素晴らしい協会に参加させていただけたことを誇りに思っております。皆様には大変お世話になりました。本当に有り難うございました。

（堀江 敏樹）

■ ニュージーランド紹介の記事

私の親戚で、昨年の５０周年記念例会に参加していただいた浜中謙治さんから入手した商社（伊藤忠商事）の広報誌「星の商人（2023 年 3 月発行）」に駐在員のニュージーランド南島特集が掲載されていました。転載の交渉を行いましたが、残念ながら許可が得られませんでした。

しかしながら、あまり知られていない世界最南端の町「インバーカーギル」の紹介があります。そこは暮らしやすいフラットな都市として紹介されています。伊藤忠商事は子会社を通じ、サウスランドを拠点に製紙原料となる木材の生産、加工、森林マネージメントを行っているそうです。ご関心のある方は当会で冊子を保管しております。また、同社ＨＰにも掲載されておりますので検索されては如何でしょうか？

（中村重夫）

■ 新会員のご紹介

● 雪田隆・直子さん

今回入会されました雪田様ご夫妻を紹介させて頂きます。ご主人の隆様は、その名前の表す通り北海道函館市のご出身の６７歳。幼少期よりスキーを得意とされ、又料理人としましても一流の腕前の持ち主です。

ご夫人の直子様は音楽大学のご出身の声楽家で、美声の持ち主です。更に最近は競泳に目覚められ、マスターズ大会の自由形で何度も金メダルを獲得される実力の持ち主です。ご夫妻とも昨年の当協会 50 周年記念例会に参加いただき、大変満足して頂けた様子でした。

紹介者であります私との関係は、私の勤務しておりました大阪市中央区北久宝寺町の「鴻池ビル」と雪田様ご所有の「よし喜ビル」が隣接しておりました関係上、言わば町内会のつながりと言ったところでございます。雪田様ご夫妻は何事にも積極的に挑戦されるバイタリティをおもちですので、当協会にも新風を吹き込んでくれるものと期待をしております。

（中村重夫）

● 分領国治さん（自己紹介）

２０１６年に３ヶ月間だけですがロトルアに語学留学しました。大好きな古事記をもとに、定年後しばらく地元の古墳ボランティアガイドをしていましたが、由緒ある寺院や神社を何も知らずに通り過ぎていく海外からの旅行者に、長い歴史に培われた文化や日本人の心を伝えたくて急遽決断しました。当時は同居の二人の母親の面倒を妻一人に任せて行かなければという状況だったので、短い期間でしたが必死に頑張ったことを覚えていま

す。おかげで現在、ガイドの度に海外の方から嬉しい返信をたくさんいただき、生きがいを感じています。何と言っても、NZの素晴らしさは大切に守られる自然と安全な生活環境でしょう。２００３～０５年までジャカルタ日本人学校に勤務して、そのことを痛感します。２００１年同時多発テロ事件の余波を受け、在勤の３年間毎年ジャカルタのどこかで爆弾事件が起きました。そのため学校の正門には自動小銃を携行した警備員が常駐し、スクールバスには緊急時に外務省と直接交信できる無線が備え付けられ、その対応は教頭の仕事でした。そのため毎朝５時前に出勤してジャカルタ各地から学校に向かう子供たちの緊急時に備えました。１９９８年の暴動後、千人を越えた小学部・中学部の児童生徒数は８００人強まで減少しましたが、百人近い教職員を管理するため帰宅は９時を回ることも多々ありました。厳しい気候と過酷な環境の中、教育に携わる方達に今も敬意を感じます。もちろんインドネシア人の人なつっこさや日本の原風景のような郊外の風景も好きですが、「人生は家族と楽しむためにある」という Kiwi の発想は私にとって新鮮な宝石です。

● **堀江真樹さん（自己紹介）**

1973 年、8 歳の時に、家族と共にニュージーランド(NZ)を初訪問。1981 年 12 月から 82 年 12 月まで、南島のダニーデンのジョン・マックグラシャン・カレッジに留学。その後、音楽関係の仕事をしながら、2015 年、2017 年に中野区国際交流協会(東京都)が主催している「中野・ウェリントン友好子ども交流」にボランティア通訳として参加。2016 年には、同会の中学生派遣事業に通訳として参加。18 日間に渡り、日本と NZ の学生たちの橋渡しをする。両国の友好交流に微力ながらお役に立てるように頑張ります。

■ **５０周年記念マグカップ**

在庫が少なくなりました。松沼清司理事デザインの桜とシルバーファーンのロゴは好評をいただいております。電子レンジ耐用です。手渡し・郵送で配布しております。

１個１０００円・送料４００円（税込み）

■ **運営・行事等へのご提案**

皆さんからのご提案等をお待ちしております。

■ **ご寄稿お願い**

ＮＺに関すること（文化・社会・旅行等）のご寄稿をお待ちしています。

■ **新会員募集**

ＮＺに関心ある友人・知人等のご紹介をお願いします。

■ **年会費のご請求**

皆さんからの会費（３０００円）で協会は運営しております。７月末までにお振込み下さい。手数料はご負担をお願いします。

・ゆうちょ銀行

記号：１４１１０

番号：５６５２９３５１

普通口座：５６５２９３５

名義：日本ニュージーランド協会（関西）

長居植物園記念植樹